

## 第2回品川区長期基本計画改訂委員会 議事概要

日時：平成25年7月16日（火）14:00～16:00

場所：品川区役所 議会棟6階第1委員会室

### 議事次第

#### 1. 開会

#### 2. 委員長挨拶

##### ■委員長

- ・ 第2回品川区長期基本計画改訂委員会を開催する。今回から、3回にわたり計画の内容について議論する。
- ・ 内容に入る前に、前回欠席された委員から一言ご挨拶いただきたい。

##### ■委員

- ・ 働く立場でご意見できればと思う。どうぞよろしくお願ひしたい。

##### ■委員長

- ・ 第1回議事録について、事務局から案が送付されている。内容について確認していただき、意見がないようであれば、このまま確定とさせていただく。後日区のホームページで公開されるのでご了解いただきたい。

#### 3. 長期計画〔改訂版〕素案（たたき台）についての意見交換

\*事務局より資料3、資料4、参考資料について説明

##### ■委員

- ・ 就業について、中小企業が地域経済の基幹であることから、中小企業に対する就業支援は重要である。しかし、若者にとっては正規雇用が重要であるが、中小企業は正規雇用での採用が経済的状況で難しくなっており、正規雇用で採用する中小企業への支援策も必要である。
- ・ 高齢者については、そもそもとして生活できないくらい少ない年金の引き上げや負担の重い医療費、各種保険料・税金の軽減減免も重要である。
- ・ 女性に関しては、認可保育園の増設・長時間労働の改善など、子育てしやすい、働き続けやすい環境づくりが重要であると思うので、この視点を盛り込んでいただきたい。
- ・ 就業について質問だが、論点に「若者を中心として就職難が続いている」とあるが、その原因を品川区はどのように把握しているのか伺いたい。
- ・ また、論点に、「子ども若者計画の策定」とあるが、実態とかみ合った計画を策定する

ためには、区役所だけではなく、区内でニートやひきこもり等の活動をしている NPO・学校・大学・若者の役割を負う機関等、幅広い参加を募った「こども若者地域支援協議会」を設置して計画を策定することが重要ではないか。

- ・ 観光について、たたき台では東京都の観光産業振興プランが追加されたが、このプランでは観光資源としてのカジノ実現のための法整備を行うことが明記されている。品川区もカジノ実現を国に求めていく立場なのか伺いたい。
- ・ 観光として国際会議等を誘致する戦略やアジア・ヘッド・クォーター特区構想との連携を考えているが、国際交流のための箱物や幹線道路整備などのインフラ整備をする予定であるのかも伺いたい。

#### ■事務局

- ・ 就業難の原因については、景気や企業の雇用体力の問題、就職希望者にとって中小企業を希望する就職先として選定しにくい現状などがあると理解している。
- ・ 品川区が目指している観光は、あくまで区民が地域を知り、地域を自慢する、それを発信することによって品川区に来てもらう、ということの基本理念としている。外国人についても、羽田空港が国際化、品川へのアクセスの良さということから、外国人来訪者への対応が必要との認識から記載している。

#### ■委員

- ・ 若者の雇用悪化は若者の職の選り好みの結果ではなく、正規雇用を非正規雇用に転換してきた、政治の責任である。若者の経済的・社会的自立を掲げるのであれば、安定した仕事と住まいの確保、生活保障付きの職業訓練や給付型奨学金制度の導入等の支援策を位置付けるべきである。
- ・ 子供・若者に関する計画策定は、区役所だけではなく、幅広い意見を聞くべきである。
- ・ カジノを誘致することなのかどうかは改めて伺いたい。
- ・ 大震災において区民同士が助け合うことは重要であるので、区内 14 町会を分断し地域コミュニティを壊す 29 号線など道路建設はやめるべきである。また、被害を防ぐための防災訓練・教育、耐震化、医療体制等の事前訓練が重要であり、こうした予防対策を都市像に掲げるべきであると思う。
- ・ 産業について、商店街の地域コミュニティの確保としての位置付けはその通りであると思う。商店街の魅力や機能、存続には消費者調査を行いながら、コミュニティバスの運行による高齢者の足の確保、生鮮三品の営業継続、若者などの個人の出店支援も必要であると思うが、この点についても伺いたい。
- ・ 文化・スポーツについてであるが、スクエア荏原が設立されたが、減免制度を導入すべきである。また、スポーツについては体罰撲滅を明記すべきであると思う。

#### ■委員長

- ・ 他の委員の発言機会を確保するためにも、たたき台に対して出された意見を踏まえるというスタンスをとり、事務局側で特段必要がなければ事務局からの発言は求めないこと

としたい。

■委員

- ・ 隣接区との連携ということについて前回主張させていただいた。その観点から意見を述べたい。
- ・ 資料4のP12 基本政策1-2-4の個別施策として、「隣接区の商店街との連携によるぎわいの創出」を加えてはどうか。「広報しながわ」7月11日号に目黒区周辺の帰宅困難者対策協議会設立という話があり、また前回の会議で、他の委員から、小山地区において目黒区と品川区の商店街の連携が進んでいるという話もあったことから考えた。

■委員

- ・ これからの商店街は利益を上げるだけでなく、大型店と両立していくためにも地域との密着が必要であると思う。
- ・ 商店街の活動は多岐にわたっており、NPOのような取り組みや、防災・防犯においても人材育成の協力などの取り組みを行っている。
- ・ このため、コミュニティに関する基本施策の中で、区民、NPO、企業などの並びの中に商店街は同列の位置付けなのではないかと考えている。

■委員

- ・ 観光の方針として区民が地域を知り発信していくことが大事であった。区民が地域を知る上で、区と区民の大きな接点である「広報しながわ」が重要になってくると思う。
- ・ 区のホームページをみると町歩きマップ等があるが、このようなものを再整備した上で、「広報しながわ」で観光特集を組んではどうか。

■委員

- ・ 若年層の経済的自立の支援について、資料4のP9にハローワークを活用するということが記載されている。しかし、その実態について聞いてみると、就業に結びつかない大きな要因として、コミュニケーション能力の欠如があるようである。
- ・ 発達障害とまではいかないものの、支援が必要とされる層は多く、専門家の中でも、こうした層への支援がないために、障害者になってしまうという警鐘を鳴らしている。
- ・ 若者の自立支援を行うためには、特に支援に関わる人たちの発達特性への理解を広げていくことが重要であろうと思う。
- ・ 次に、P13の観光資源について多種多様なものがあるということであるが、区とNPOの協働が成功したシステム、例えば空き店舗の活用というようなことも、立派な観光資源になり得るのではないかと。
- ・ 中央公園のグラウンドのコースや文学資料館跡のコースなど、他区に誇れる多様な資源があるので、区の施設を使用したマラソンの大会等を、様々な関係機関とネットワークを組んで催すなど、多種多様な観光資源の範囲をより広げてはどうか。

■委員

- ・ 基本方針1-1で、近隣や地域に住む人々の力で有事の際に助け合う地域社会を構築する

ことが目指されている。しかし、経験上、同じような災害が起きたときには、一義的には自らの命を守り、食糧を確保するために、近隣と助け合うことは難しいのでは。

- ・ 町会を守る自警団のようなものを組織できるような地域社会をつくっておくことが必要であると思う。
- ・ 町会費を払っている人には物資を提供するが、そうでない人には提供しないといった考え方も存在する。こうしたことも念頭に置いて検討した方がよい。

#### ■委員

- ・ 町会の中でいろいろ聞くと、今のような意見の方もいるが、すべてではないと思う。
- ・ 福祉の視点からコミュニティについて感じた点がある。P5 個別施策②の下線部分であるが抽象的でイメージがわからない。
- ・ 区が実施した、団塊世代に対する意識調査の結果をみると、地域社会への貢献に関する意識は低いものの、誘われたら取り組むという意見も多い。また、アウトリーチで地域に入っていくと、助けてほしいという人だけではなく、自分も助けたい、という人がでてくる。こうしたことを考えると、「誘われてコミュニティ」と呼んでいるのだが、誰かに誘われてとりくみに関わるような仕組みが重要だろうと思う。
- ・ 品川区は行政が力を入れてやってきたので、ボランティアなどが低調である。例えば、区民との協働事業で行政提案型ということをやってきたと思う。そのとき、募集するだけではなくそれを回すための事務局人材を紹介するということまでやらないと、うまくいかないと思う。
- ・ また、資料4 P4 の⑤の「困難な事案が増えている」とあるが、もう少し内容がわかるように工夫してはどうか。
- ・ 資料4 P3 の個別政策②で「地域に貢献する団体や個人を顕彰・支援する」とあるが、地域活動をしようという団体を創発することが重要なので、「顕彰」の言葉に据わりの悪さを感じる。

#### ■委員

- ・ 資料4 P5 の②について、これから、コミュニティの重要性は高まると思うが、その担い手は誰になるのだろうか。
- ・ 地域福祉や健康づくりなどという例示だと、ふれあいサービスや健康クラブといった高齢者の組織作りという印象がある。これからは、子育て中の若い世代をいかに地域の中に組み込んでいくことが重要であるので、「子育てなど」という若い世代も参加するという文言を入れ、実際そのような取り組みをしていけばよいのではないか。
- ・ 就業について複数の委員から意見が出された。地方自治体にとって労働問題にどこまで関与できるのかは難しい問題である。その中でも品川区は積極的な取り組みを心がけており、その点は評価できるが、今の法制度の中で実効性が担保できるのか懸念される。

#### ■委員

- ・ 今年から町会長になり、コミュニティについての関心は高い。

- ・ 町会でも、品川区でも、自分たちが何をやろうか、何をしてほしいか、ではなく、町会は、区は、何をしてくれるのか、という考え方があるのが気になっている。
- ・ 定年を迎えると地域に戻ってくるしかない。助けられる、または保護される高齢者ではなく、地域のために活動してくれる高齢者となる必要がある。
- ・ 専門的なアドバイザー派遣よりも、町会において地域をコーディネートしたりプロデュースすることができる人材の育成が重要であるように思う。
- ・ この計画の計画期間が終了する5年後に、町会・自治会のさらに若くなったメンバーが地域の課題について論議しながら、対応していく姿が実現していくとよいと思う。こうした夢を計画の中に記載できると、自分が何をすべきかが見えるのではないかな。

#### ■委員

- ・ 「誘われてコミュニティ」という話がでたが、誘い手が誰になるかが問題である。これまで、地域活動や市民活動、コミュニティを運営していくような担い手を育成するという視点が弱かったのではないかなと思う。
- ・ 専門家を派遣するだけでなく、自分たちの住んでいる地域をどのようにしていくかを考え、発信していく人を、生涯学習を通じて育成していくことが必要ではないかな。

#### ■委員

- ・ コミュニティについて非常によい意見が出されたと思う。
- ・ 国が何かをしてくれるのではなく、自分が国になにができるかを考えてほしいというアメリカ大統領の就任演説を思い出した。
- ・ コミュニティについて、町会の団結力が高まることが重要だと思うが、そのためにも、小さい間から、コミュニティの重要性について意識付けられるとよい。
- ・ 産業については、品川区の優れた産業の実績を区の内外にもっと発信したほうが良いのではないかな。

#### ■委員

- ・ 地域の子どもたちと高齢者の関係は今後も重要になると思う。祭りなどのイベントは多く展開されているが、持続性を考えると、違った仕組みも必要である。
- ・ ある小学校では、学校が地域とのつながりを維持するために、子どもが高齢者宅に訪問し資源ごみのゴミ出しを支援していると聞いたことがある。全体として現状の記述は具体性に欠けるので、こうした持続的な取り組みも想定してはどうか。

#### ■委員

- ・ 個人レベルでの意見交換や議論は、SNS等を利用することが日常的になっており、区のコミュニティのあり方にそういった観点も加えたらどうか。実際の会議などでも、パソコンを持ち込んで議論することが当たり前になっている。しかし、区民施設では、WI-FI環境やプリンタが整備されていないなど、十分な環境が提供されていないと感じている。図書館などの施設でWI-FI環境を提供するなど、個別の情報利用環境の発展が必要ではないかな。

- また商店街でも WI-FI 環境を提供すれば、リアルな賑わいを創出すると共に、来訪者が SNS 等による即時の情報発信が可能となることで、バーチャル環境での賑わいの創出にもつながる。

#### ■委員

- IT の環境の提供の話は重要であろうと思う。
- 観光ということ言えばスマートフォン等の情報端末からその地域の情報が得られるような仕組みづくりが必要ではないか。
- 地域コミュニティの担い手の確保として、情報共有の方法についてメーリングリストなどの仕組み作りを支援するなどの具体例を記載しておけば、今後の新たな施策展開にもつながっていくのではないか。

#### ■委員

- 品川区だけで観光を盛り上げていくのは難しいのではないか。
- 品川区にあるものだけではなく、東海道 53 次や池上通りなどに着目した連携もあつてはよいのではないかと思う。そのため、資料 4 の P13 において、「今後の課題」を「品川区は、全国的に名の通った観光立地ではありませんが、大都市東京の一部、さらには、東海道 53 次の一部を構成しています。そこで、これらのつながりを重視しつつ、品川らしさを～」としてはどうか。その上で、P15 を「東海道ラインの各区との連携を通じた観光の推進」としてはどうか。
- また、個別政策③についても、隣接する大田区や港区と連携した情報発信が重要ではないかと思う。

#### ■委員

- コミュニティや就業について、「若者を中心とする就職難が続く」とあるが、今の若い人は会社を気軽に起こす面がある。また、家事や育児をしている母親も働きたい人は多く、簡単に会社を作っている人も多い。
- 空き物件を調べて若者に紹介するなど、起業しやすい体制づくり、そこで雇用が生まれるという仕組みを作っていけばどうかと思う。

#### ■委員

- 武蔵小山の創業支援センターで、ママ友 5 人で 3 年間雑貨屋をやったが、商売というのは難しいという経験をさせていただいた。品川区で起業支援をしている流れは非常に重要であると思う。様々な事例が重なって、次の人に生かされていくとよいと思った。
- コミュニティについて、地域の避難訓練にも出席していないことを反省している。町会費を払っているが、なにをしてくれるのかという考えを持っていた。イベントを楽しむということはあっても、私たちが地域になにができるかということあまり考えていなかった。
- 子育てのママたちで集まっていることはあるので、私たちが地域の商店街にできることや高齢者の方と接点をもっていくということが大事であると思う。

#### ■委員

- ・ P10 個別施策③の中で、「長年の経験等により～」とあるが、実際には今から技術を持つ人を育てようとしても間に合わないだろう。
- ・ 一方で、ものづくりは、経験で培われた技術によっているという印象をお持ちの方が多と思うが、今は必ずしもそうではない。例えば、3Dプリンタというのは、設計図がしっかりできていれば正確な形をくみ上げることができるもので、近年値下がりが大きく簡単に導入できるようになってきた。
- ・ このように、実態にあうような技術を持った人材を供給していくことが重要ではないか。
- ・ 若者の就業についてであるが、大学を卒業していても、実際にはパフォーマンスを発揮できない人材が多数応募してくる現実がある。これからのものづくりの現場は、知識だけではなく、しっかりと体を動かせる人が支えていくことになるだろう。こうしたことも踏まえて、施策を検討する必要があると思う。

#### ■委員

- ・ 記述されている計画を着実に実行していただきたい、それができれば、相当に良い品川区になるように感じる。
- ・ しかし、これは答えがなく、品川区だけの問題ではないが、人口ピラミッドをみていると、20年後、30年後の日本はどのようになるのだろうかの不安を持つ。今回の長期基本計画は5年後を見据えたものであるが、20～30年後も考えていかないといけないのではないかという漠然とした不安がある。
- ・ 国際交流を推進するというなかで、八潮地区はインド系住人の定住が進んでいると感じる。こういった中で、従来からの住民との関係性の確保が課題と感じている。区としても、定住化している外国人について、どのようにコミュニティを作っていくかについて非常に大きなテーマであると思う。

#### ■委員

- ・ 女性の就労であるが、P9で、就労機会の創出だけではなく、実際には取り組んでいると思うが、継続支援などの視点も入るとよいと思う。
- ・ 若年層の就業支援については、発達障害等の課題を抱えている方が課題になると感じる。発達障害の方や児童養護施設の方のために就業斡旋を行う等の民間企業があると聞いており、区としてこうした企業との連携を図ってはどうか。
- ・ 観光について、全国的に知名度は高くそれをどのように生かすか、の方が重要であるように思う。外国人についても、ビジネスで周辺区市に滞在している外国人の区への来訪を促すという考え方もあるだろう。
- ・ 観光については、全体的に戦略が弱いように思う。区内消費をいかに大きくするのが産業としての観光だと思うので、より明確なビジョンの基に書いていくのか、そこまで議論が進んでいないのであれば、もう少しシンプルに書いた方がよいように思う。

- ・ 区外に勤務のする区民の区政への参加が弱いと考えている。今後の5年の計画の中では、その参加を促す情報発信や働きかけなどの視点を追加した方がよい。その中では、SNSを活用するということもあるだろうと思う。

#### ■委員

- ・ 資料のP19の個別施策③について、非常によいことである。特に後半の品川歴史館以降は大いに進めていただきたい。
- ・ これに関連して、P24の個別施策①について、ここに品川歴史館という言葉を入れてもよいのではないか。ハード面での改修だけではなく、博物館的機能だけではなく、市民科、社会科、生涯学習に耐えるようなソフト面での改修を進めることが必要になると思われる。
- ・ P25の説明文において「効率的」などの文言が入るとよいと思う。伝統文化の継承と生涯学習は内容が重複する一方で、担当課が異なる。相互の役割分担について明確化することで、より効率的になるのではないか。

#### ■委員

- ・ 地域の連携のしくみづくりでは、関係機関それぞれから様々な情報がくるため、チャンネルが一本化できれば、地域の方の負担の軽減につながるだろうと思う。
- ・ P9の個別施策②で、就労の経験がない方については、多くの自治体で取り組みがうまくいっていないのが現状であろう。支援される方がどういう状況にあるのかを俯瞰できるような仕組み構築が重要であり、責任所在がはっきりするような表現になっているとよいと思う。

#### ■委員

- ・ 本日の議論を通じて、長期基本計画の根本は、区民を助けるではなく、区民の活動を助けることだと感じた。そのため共助と公助のバランスを考えることが重要であろう。
- ・ 職業柄、若年層の就労は気になる場所であるが、公助がいきすぎない範囲での継続的な就業支援が必要かと思う。
- ・ ITの活用については、現行計画では区役所の電子化という観点は入っているが、それ以外のところをどのように扱うかについては検討が必要と感じた。
- ・ 歴史・文化を知ることとは、道路ネットワークや土地の高低、過去の災害の記録などを知ることにもつながり、災害対応に役立つと言う点も、一言書いておくのも重要ではないかと思う。

#### ■副委員長

- ・ 委員のご指摘の通り、5年後どうなっているかわからないというのは、その通りであろうと思う。そのため、先を見通しながら考えることと、先を見通せないことをどのように柔軟に対応できるようにしておくか、ということの両方が重要である。
- ・ ITやSNSといった話が合ったが、技術は進化するとリテラシーはよりいっそう分化していく傾向にあり、その点も念頭に置く必要がある。



- ・ 地域福祉を専門に研究してきた立場からは、地域のコミュニティとして従来の地縁組織や民生委員などを想定するが、それだけではなく、区民の活動が拡大していること、いろんな組織形態がたくさんある、それをどのように活用するかを考えないといけないという問題提起がされているように感じた。

■委員長

- ・ 地域社会活動の中での商店街の位置付けの議論など、都市像やその下の基本政策はそれぞれが相互に関連している。そうした中で、あらためて現在の分類が適切であるかについての議論は、今後も必要になると思う。
- ・ 同じような意味で、項目ごとのバランスの問題も出てくるだろう。例えば、P8～P9にみても、P9の内容を新規追加するならば、創業支援はP8の①だけでよいのか、という議論も出てくると思う。

4. その他

5. 今後のスケジュールについて

6. 閉会

以上